

酪農女性が語る新規就農について

*** 浜中町の取組事例から ***



社団法人 酪農ヘルパー全国協会

第4集

研修生から見た新規就農支援

渡辺剛さん・季子さん夫妻は(有)浜中町就農者研修牧場で研修を始めて4年目。剛さんは石川県の非農家の出身で、弘前大学卒業後、地元でサラリーマン生活を送っていた。しかし、5年ほど前に仕事に行き詰まった。当時は夜遅く帰宅し、翌朝早く出勤する生活だったことから、夫婦でずっと一緒に仕事出来る酪農に魅力を感じた。子どものころの夢が牧場のおじさんになることだったことや大学時代に獣医を目指していたことも酪農家になりたいと思う動機でもあった。

そこで、まずは季子さんに相談。すると、季子さんは「やりたい気持ちがあるなら、やらせてあげたいと思った」ということで、第一関門である季子さんの説得に成功。しかし、第二関門である両親の説得は難航。酪農家になることを反対されたが、渡辺さんは自分の意志を貫いた。その後、両親とはしばらく音信不通状態になってしまったが、長女・千恵梨ちゃん(2歳)が生まれてからは関係が修復した。

酪農家になることを決意した渡辺さんは、就農する場



左から季子さん、千恵梨ちゃん、渡辺剛さん

の取り組み

(有)浜中町就農者研修牧場

渡辺 剛 さん
季子さん

所をインターネットで探していた。そんなある日、季子さんが名古屋で就農相談を受ける講座があることを見付け、受けることにした。

その講座で体験と視察することを勧められた渡辺さん夫妻は、北海道を訪問。(有)浜中町就農者研修牧場で実際に研修している人の話を聞き、管内の牧場はそれほど規模が大きなく、サポート体制がしっかりしていることから入社を決めた。それからは研修生として酪農家になるための訓練の日々を過ごした。そして、このほど新規就農する牧場が決定。今年の11月に晴れて就農する。

剛さんは「育成牛は飼わない方針で、搾乳牛は冬場でも昼間は外に出したいと考えています。酪農が楽しくてもそれ以外にもやりたいことがあるので、出来る限り労力を抑える予定です。万が一のことを考えて、女性一人でもできる体制にしたいと考えています」と就農後の経営方針を説明した。

最後に新規就農を希望している人へのメッセージとして剛さんは「新規就農を考えるならば行動力だと思います。普段の生活に流されずに、やろうと思った時にやれるのかどうか。タイミングを逃さないようにするべきでしょう。気持ちが一番大切です。たとえ何かあっても気持ちがあれば乗り切れると思います。その気持ちを忘れずにいたい」と力強く思いを語った。

(有)浜中町就農者研修牧場の概要

(有)浜中町就農者研修牧場のある北海道浜中町は、道東の釧路市と根室市の間に位置し、農地1万



5千ha、乳牛飼養頭数2万3千頭、生乳生産量9万4500tの酪農の町。浜中町では新規就農者を積極的に受け入れ、昭和58年から現在まで30戸が新規就農した。

(有)浜中町就農者研修牧場は、浜中町と浜中町農協が新規就農者を育成するために設立。平成16年に農協から独立し、有限会社となった。研修方針は「酪農の基礎から実践的な技術・知識まで」。研修の内容は、乳牛の飼養管理、圃場(牧草地)の管理、粗飼料の生産、情報処理のほか、酪農に関する講演会や勉強会の参加など。

研修生は離農により空いた牛舎に就農する方式で、就農する牧場と時期は自分では選べず、離農者が出た時に順番に話が来る。断ると研修生の中で一番最後に回る。

牧場はフリーストール・ミルクングパーラー方式で、経産牛116頭、育成牛80頭を飼養。夫婦での受け入れを原則とし、給与は夫婦で月額25万円(妻は扶養のパート職員とする)で、研修生用の住宅は完備。福利厚生は健康保険、雇用保険、労災保険など。現在は4組の夫婦、8名がシフトを組んで研修している。

酪農を支える女性たちと語る

— 4名の女性ヘルパーが意見交換 —

石田さん：私の職業は経営コンサルタントで、普段は農業や酪農とは関係のない立場にいますので、専門用語は分かりません。ですが、縁があって酪農ヘルパー全国協会が発行している「酪農ヘルパー」という冊子にコミュニケーション方法などの話題を提供しています。それではまずは自己紹介からお願いします。

坂口さん：酪農学園を卒業後に、榛名ヘルパー利用組合に就職しました。1年目です。30戸ほどの酪農家さんを先輩の女性ヘルパーと2人で回っています。利用する酪農家さんの飼養規模は10～

80頭です。まだ仕事に慣れないことが多く、今の目標はまず一人前になることです。将来は酪農家になりたいと思っています。

押切さん：北海道浜中町で平均60～80頭規模の酪農家さんを回っています。実家が酪農家で私が後継者ですが、現在はヘルパーをしています。

井村さん：ヘルパーになる前は北海道標津町の牧場で実習していました。その後、兵庫県に帰ってきてヘルパーになりました。利用している酪農家さんは45戸で、大半がつなぎ牛舎で30～50頭規模。最も規模が大きい酪農家さんは130頭です。



新規就農情報交流会（平成23年3月4日、東京・南青山の南青山会館にて）



(有)石田コンサルタントオフィス・石田邦雄さん

市原さん：ヘルパーになって15年。昔は牛飼いになりたいと思っていました。

石田さん：先ほど話題を提供してくれました渡辺さん夫妻が研修している浜中町の新規就農の状況を見ると、昭和58年から出身地は北海道に限らず、全国各地から現在まで30組が就農しています。

就農するまで数年間かけていくつかの手順を経るなど長期間に及ぶが、それには理由がある。飼料や牧草地の管理から始まり、トラクターの運転など幅広い作業を身に着けなくてはならない。また、浜中町の気候・風土を知ることも必要ということです。海辺に近い牧場と陸地にある牧場では条件がまったく異なるということでした。それらを知った上で牛飼いになることが重要という話をしてくれました。

新規就農するための手段としては、渡辺さん夫妻のように就農者支援牧場があります。そこでは、他の研修生たちと基礎から学んで技術、知識、経験を蓄積して就農に備える。また、管理者となって運営・経営を任せられることで、より実践的な経験が出来るということ。渡辺さ

ん夫妻はそういった経験をしてきました。

その他の手段としては、酪農家さんでの実習、あるいはヘルパーからということも考えられます。例えば、押切さんは後継者ですよね。そのように選択肢は数種類あります。

浜中町の研修牧場は新規就農者を育成するための施設として平成3年に浜中町と浜中町農業協同組合がトレーニング施設として設立しました。やる気、根気、元気、の3つの気を大切にしています。奥さんの季子さんが新規就農すると言ったご主人についてどのように感じたのか。それが大きなポイントですね。安定した生活から新規就農することを決断するときは勇気が必要だったのではないのでしょうか。その経緯を聞きたいですね。

季子さん：最初に「酪農をやりたい」と聞いたときは、正直に言って本当に出来るのかなということでした。作業の内容は分からなかったし、経験は無いに等しいし、生活費の問題もありました。それが最初に感じたことです。ですが、主人のや



榛名ヘルパー利用組合・坂口祐子さん

りたいという気持ちが強かったので、それならばやらせてあげたいと思いました。

それからは、まずは自分たちに出来るのかど



デーリィサポートかごしま・市原美千代さん

うかを調べるため、担い手を募集する講座に参加しました。そこで話を聞かせていただき、北海道の牧場で4日間体験させてもらうことになりました。実際に研修牧場で働いている方の話を聞いて「これならばできるかな」と思いました。ですが、やはり勇気はかなり必要でした。今までの生活がありましたので。

石田さん：ご主人は実際に新規就農が決まり、今まで歩んできた道を振り返ったとき、決断は間違っていない感でしたか？ また、期待と不安はありますか？

剛さん：新規就農する場所が決まってからは農協の事業担当者との打ち合わせが多く、期待が膨らんでいます。

季子さん：研修牧場では他の研修生がいたのでやってこれたことがあるでしょうが、これからは夫婦二人

でがんばる必要がありますね。

石田さん：坂口さんは新規就農についてどう思いますか？

坂口さん：農業高校卒業後に入学した酪農学園には酪農家さんの息子さんや娘さんがいて、彼らの話を聞くと実家の牧場は私が思っていた以上に規模が大きいと感じました。私は漠然とした目標の中で新規就農したいと考えていますので、もっと勉強する必要があると感じています。ヘルパーになってまだ1年たっていませんし。将来設計はまだありませんが、ゆくゆくはどこかの牧場でじっくりと働いてみたいです。もともと動物が好きです。

石田さん：皆さんに共通しているのは動物好きということ。それがキーワードですね。

剛さん：私は弘前大学で畜産を学びました。本当は獣医師になりたかったんです。

季子さん：主人の子どものころの夢は「牧場のおじさんになりたい」だったんです。実際に動物に接している姿を見たとき「ああ動物が好きなんだな」と感じました。

事務局：研修牧場で働いているとき、技術的なことで夫婦の意見が食い違うことはありますか？

剛さん：研修牧場では女性は搾乳と哺育を担当しますので、妻は私がたまに搾乳しているのを見ると「そこは違う」といったことを指摘されることがあります。

また、妻が時々「あの牛、発情してるよ」と教えてくれますが、私は「えっ、この牛が？」と思うことがあります。そこで授精師に見てもらおうと、ちゃんと発情している。よく見ているんだなと感心しています。

石田さん：今回の意見交換会のテーマは「酪農を支える女性たち」。これからの酪農・農業の大きなキーワードですね。

市原さん：ヘルパーをしていて思うことは、牧場のご主人が入院しても奥さんはヘルパーを利用せずに一人で頑張っているケースがありますが、反対に奥



東播磨酪農農業協同組合・井村祐子さん

さんがいないと、普段搾乳をしないご主人の場合は搾乳が出来ません。短期間であれば給餌は何とかなりますが、搾乳ばかりはどうにもなりません。ですから夫婦二人で搾乳できるといいと思います。

また、独身の酪農家さんは「結婚している酪農家さんには奥さんがいることのありがたみが分かっていない」といいます。「夫婦で一緒に仕事をしてるのに、なぜ一緒にその日の仕事を終わらせるのか」「なぜ奥さんだけ早く仕事を終わらせて30分でも休憩する時間をあげないのだろう」と。そういった心遣いが必要だと思います。

井村さん：私の組合はヘルパー6名が全員女性ですので、男性のヘルパーはやりづらいようです。臨時で入ってもすぐに辞めてしまいます。利用農家さんは今まで女性ヘルパーを相手にしていたので、その違いが分かって辞めてしまう場合がありますが、中には男性の力を求めている酪農家さんもあります。一人だけではなく、半々くらいが一番望ましい気がします。

押切さん：女性は力の部分で男性には敵わない部分があ

ります。そのほかにも機械に乗れない場合やミルクカーに手が届かない場合もあります。踏み台を使いたくても、牛と牛の間に鉄パイプのパーテーションが入っている牛舎は難しいですね。

井村さん：私もミルクカーの高さに困る時があります。そのような時は、板に引っ掛けたりといった工夫をしています。

石田さん：酪農ヘルパー全体に占める女性の割合は10%ちょっとですが、男性よりも女性のほうがはるかに元気がいいと感じます。今後は女性ヘルパーが活躍する機会は増えるでしょう。

市原さん：ヘルパーにはそれぞれ得意分野がありますので、ヘルパー同士で助け合い、仲良く仕事できる環境作りが大切です。地域内だけでなく、広範囲のヘルパーたちと交流すると技術が向上します。

私は昨年出産しましたが、組織が合併して県内一本化されたことで産休が取れました。有給休暇も取れるようになり、働きやすい環境を作ってくれました。事務局に感謝しています。



(有)浜中町酪農ヘルパー組合・押切彩さん

坂口さん：シフトは1ヶ月前に組まれますので、割と融通を利かせてもらっています。

石田さん：新規就農も一つのキーワード。渡辺さんは新規就農を考えたとき、どこが難しかったですか？

剛さん：東京や大阪でしたら情報が沢山あったかもしれませんが、石川県ではそれほどありませんでした。新規就農したいと思ってもどこから取り掛かればいいのか、どうしたらいいのか分かりませんでした。私はたまたま国が実施している講座を受けることが出来ましたが。

石田さん：渡辺さんのように、石川県では酪農に関する情報が集めにくかったということですね。

事務局：新農業人フェアという新規就農者を募る相談会がありますが、会場は東京、大阪が中心で、札幌、仙台、広島、福岡などで開催しています。研修牧場に東京や大阪の出身者が多いのはそういった理由が考えられます。ですが、情報が欲しい人はその他の地域にもいます。そういった人に届いていないということ。主催者側は「やってますよ」という考え方ではダメ。もっと知っても

らう機会が必要ですね。

市原さん：パッと目に付くような情報提供の方法があればいいですね。新規就農したい人がいたら、ヘルパーとして1、2年働いてもらおうといいでしょう。ヘルパーならば、色々な牛舎を見ることができずし、様々な牛の飼い方を知ることできます。

石田さん：カウンセリングをすると、女性が働く環境の中で重要なのは人間関係。これが大きなポイント。厚労省の労働者健康状況調査によると、女性がストレスを溜める大きな要因は人間関係の善し悪し。60%近くを占めています。男性は女性よりも20ポイントほど下がる。女性が働きやすい環境を作るためには一番大きな問題です。それをいかに改善するか。

剛さん：就農したら体力的に負担がかからないようにしたいと考えています。そして、ヘルパーさんが仕事をしやすい牧場を作りたいと思っています。

石田さん：女性には男性にはない強みがあります。どんどん女性ヘルパーが増え、それによって新規就農に結び付くことを願っています。



新規就農情報交換会出席者の皆さん

酪農経営を円滑に継承するための 酪農経営継承データベースに登録しましょう



酪農への新規就農希望者が増えていますが、就農先を探そうとしても、その探し方が分からないという声があります。一方、経営移譲希望者（共同経営希望者も含む）も、新規就農希望者を探しています。

このため、全国的に新規就農希望者と経営移譲希望者の情報を収集し、データベースに登録して、必要な方に情報提供し、円滑な経営継承を促進します。

新規就農希望者

酪農に新規就農したいが、農場が見つからない。

経営移譲希望者

後継者がいないので農場・経営を第三者に譲りたい。

お近くの酪農ヘルパー利用組合・都道府県団体の
経営継承データベース推進担当者に相談。
新規就農希望者データベースに登録／経営移譲希望者データベースに登録

経営移譲したい方は、社団法人酪農ヘルパー全国協会のホームページの
新規就農希望者データベースから、新規就農希望者は、
経営移譲希望者データベースから、それぞれ条件の合いそうな方を検索。
(全国協会 <http://d-helpar.lin.gr.jp/>)

条件の合う方が見つければ、経営継承データベース推進担当者を通じて、
詳しい情報を入手。

相手の方にあつて、直接、経営継承に関する交渉の実施。
(経営継承データベース推進担当者が仲介)

経営継承の実現(就農)

牛に優しい 仕事をしよう

全国で酪農ヘルパーを 募集しています。

酪農家の皆さんが休みをとる際に、酪農家になって搾乳や飼料給与などの仕事をするのが酪農ヘルパーです。全国各地にある利用組合等で、今日も酪農ヘルパーを募集しています。

酪農ヘルパーになるために 支援しています。

酪農ヘルパー全国協会は、酪農ヘルパー就業希望者で修学資金の受給を希望する農業大学等の学生に対し、修学資金(月額5万円を1年間を限度に)を交付します。また、酪農ヘルパー就業希望者で酪農体験希望者に対し、体験農場を斡旋しています。

技術を習得して新規就農に 挑戦しよう。

酪農ヘルパーは、さまざまな酪農経営をヘルパーしながら、酪農経営に必要な知識と技術を身につけるとともに、自分にあった経営スタイルを見つけるチャンスでもあります。あなたも、挑戦してみませんか。

いま全国で
酪農ヘルパーを
募集しています

人に優しく
自然に優しい

今日も全国で
酪農ヘルパーが
活躍しています

牛に優しい
人が好き

◆酪農ヘルパーについて詳しくは
下記ホームページにも掲載されています。
ぜひご覧ください。

酪農ヘルパー全国協会

検索

新規就農情報誌：第4集

平成23年3月 発行

企画・編集 **社団法人 酪農ヘルパー全国協会**

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号 ヒューリック兜町ビル6階

TEL.03-3662-2722 FAX.03-3662-2723

URL：<http://d-helper.lin.gr.jp> e-mail：info@d-helper.lin.gr.jp